

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○8月28日～

先週はそれほど大きな動きがなく、ドル／円は高値圏での推移となりました。

FRBのパウエル議長のジャクソンホール講演後もドル／円は強い動きを見せ、146円台で取引を終えました。

パウエルFRB議長の講演は内容的には特にサプライズとなるようなものはなく、インフレを確実に抑制するために一段の利上げが必要となる可能性があると述べました。

9月の米国の利上げについては不透明な状態となっているため今後の指標次第となりそうです。一部の予想では9月利上げは見送り、11月に利上げをするという見方もあります。

FRB、ECBともに物価目標(インフレ率2%)に変更はなく、日本は全国消費者物価指数がすでに3%程度になっているので、今年後半の日米欧のインフレ率の推移に注目したいです。

日本の介入警戒感はあるもののじわじわとした円安が続く場合は、150円手前まで円安が続く可能性もあります。

口先介入などけん制的な発言が続けて出てくるような場合は注意がいります。

今週は、米国では個人消費支出や雇用統計、ISM製造業景況指数など重要指標の発表が多いので、ニュースもしっかり見ておきたいです。

日本の放射能汚染の処理水の海洋放出は、海外でも問題になっており、中国、香港などの海産物などの不買運動の影響は大きそうです。

中国に対してはロシアが海産物の輸出を増やすということなので、日本の水産物のダメージが心配です。政府の想定していた金額をかなり上回っているということで影響がどの程度の規模になっていくのかも気になります。

中国経済もあまりいい材料がない中で貿易問題が再び問題視されてくればマーケットにも影響が出る可能性があります。

株価が上昇に転じればリスクオンの動きになってくる可能性があります。米国株、日本株ともに上昇に転じたとはまだいえない状況なので、引き続き、株価動向も見ていきたいです。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル／円>

先週のドルは144.5～146.6円と2円程度の値動きとなりました。

145円を超えても安定して高値圏を推移しています。

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

上昇のスピードが緩やかなため介入警戒感もそれほど強くないので上値をじわじわと試しにくい可能性があります。

高値買いはリスクが高いので、145円あたりまで下がってきたところを狙いたいです。

先週安値の144.5円を維持している間は堅調な動きが期待できそうです。

下値は、144円を割り込むと142円あたりまで下がるリスクがありそうです。

今年の1月から円安トレンドが継続していますが147円より上では介入だけでなく、乱高下や急落などが起こる可能性も考えてポジション管理は厳重にしたいです。

中期的には140円台を維持している間は上昇トレンド継続と考えられます。

<気になるクロス円>

クロス円は先週あまり動きがないペアが多く、取引に迷う方もいたと思います。

オセアニア通貨は少し動きが弱いですがユーロ、ポンド、カナダドルなどは、動きは大きくないですが上昇トレンドが続いています。

ユーロは、再び160円を目指す動きに注目したいです。

ポンドは183円を割り込まなければ186.8円を超えていく可能性があります。

ユーロやポンドは、株価の動きが安定してくれば上昇トレンドが続く可能性があるので、押し目買いを狙いながら細かく利益を確定していきたいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では7月鉱工業生産などがあります。

米国では6月ケース・シラー米住宅価格指数、7月雇用動態調査(JOLTS)求人件数、8月ADP雇用統計、4-6月期GDP(改定値)、7月住宅販売保留指数、7月個人消費支出(PCEコア・デフレーター)、前週分新規失業保険申請件数、8月シカゴ購買部協会景気指数、8月雇用統計、8月製造業PMI(改定値)、8月ISM製造業景況指数などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで8月消費者物価指数、8月製造業PMI(改定値)、ユーロ圏でECB(欧州中央銀行)理事会議事要旨などがあります。

ほかにはオーストラリアで7月消費者物価指数、カナダで4-6月期GDP、6月GDPの発表などがあります。